

第2回横浜市寿生活館指定管理者選定評価委員会議事録

1	日時	令和2年7月29日（水）15：00から17：15まで
2	開催場所	横浜市役所17階 S01会議室
3	出席者	選定評価委員：阪東委員長、江原委員、丹羽委員、三浦委員、柳原委員（5人） 事務局：遠藤援護対策担当課長、鈴木担当係長、坂田担当係長、加藤職員、松永職員（5人）
4	欠席者	なし（0人）
5	議題	指定管理候補団体の決定
6	開催形態	非公開
7	決定事項	指定管理者候補団体として公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会を選定した。
8	議事	1 経過説明 第1回選定評価委員会後からの経過について事務局より説明を行った。 3月19日から4月30日まで公募申込受付を行い、5月18日から同月22日までの受付期間に1団体から応募があったことを報告。 応募書類や選定の流れについて説明を行うとともに、最低基準について諮り6割とした。 2 プレゼンテーション 応募団体による30分間の応募内容についてのプレゼンテーション。 3 ヒアリングでの委員の主な質問と応募者の回答 ＜評価項目1 団体の状況＞ （質問）健康コーディネート室による出張相談を週一回しているとあるが、1か月の相談件数はどれくらいか。 （回答）実施回ごとにばらつきはあるが、だいたい1回あたり5、6件程度。1か月あたりでは、20～30件となる。また、健康コーディネート室では生活館利用者のうち、93名を個別ケースとして把握できている。出張相談は週一回ではあるがケース把握と合わせて、利用者の立場に立って対応できていると考える。 （質問）様式2－4地域福祉保健推進事業の中で地区内の介護事業所や簡易宿泊所との交流会・懇談会の実施とあるが、どれくらいの頻度で開催するものか。また、定例会のように定期的に開かれるものか。 その中でどのようなことが話し合われるのか。この取組は従前より実施しているのか。 （回答）年4回の頻度で定例的に開催している。今年度は新型コロナウイルス

	スの感染防止の観点から開催できていないが、直近で7月の中旬に開催された。交流会では参加者に幹事をお願いしており、参加者の皆さんが必要と思う事項が議題になる。当該回においては、コロナウイルスの感染防止について情報交換が行われた。障害者作業所・簡易宿泊所との交流会は、以前から実施してきている。 （質問）自治会町内会など生活者として地域に住まわれている方々の自治組織の活動は活発か。また、高齢者等どの程度の参画があるか。 （回答）住民組織の代表的なものとしては、寿地区自治会・寿社会福祉協議会がある。2月に豆まき、5月にこいのぼりといった季節ごとのイベントをはじめ年間を通じて事業を実施している。また、地域内にある保育園2園と交流しており、大勢の参加がある。 （質問）居住者自身が自治会や老人会の組織活動に携わるなど、積極的に活動に関わっている状況はあるか。 （回答）そうした例もあるが、多くは支援者が事業を企画実施し、居住者は参加しているといった状況。なお、生活館事業である「高齢者文化事業」では、利用者の登録が400人を超えており、事業実施にあつては、色々と要望をいただくことが多く、参考にしている。その実例として協会情報紙にある「ことぶき散歩」も利用者の要望を受けて実施したもの。 <評価項目2 職員配置・育成> （質問）新人研修の実施等とあるが、職員の定着率はどうか。若い人が入ってきているか。また、管理運営の部分で大掃除にボランティアの方が携わるとあるが、有償・無償のどちらか。またその頻度と役割はどのようなものか。 （回答）横浜市寿町健康福祉交流センターの管理運営の新規受託等に伴い正規職員2名及び嘱託職員2名を採用した。正規職員の定着率が高いが、嘱託職員は数年で辞める方がいるなど定着率はあまり高くない状況。生活館運営職員としては、40代施設長を除き他60代と年齢層は高いものの、自己都合による退職はほぼない。 ボランティアは利用者の方が大半。弁当の配布など実費部分は支給しているが、無償で協力いただいている。過去の職業経験等を活かし積極的に手伝っていただけの例もあり助かっている。 （質問）活動に関心のある方など地区外の方がボランティアとして参加する例はあるか。 （回答）過去そうした傾向はあったが、現在では利用者の方が大半。平日に実施していることもあり、参加が少ないものと思われる。 （質問）指定管理者制度では運営管理の指定を受けた期間しか収入が入ってこず、指定管理者に指定されなかった場合は収入がなくなってしまうなど不安定というデメリットがある。その中で、新人を採用するに際しては、どのように説明を行っているか。
--	---

	(回答) 採用の際はご指摘のようなリスクがあることを説明している。なお、運営が補償されていないことは、生活館に限らず、他の指定管理施設をはじめ民間でも広くあり得る状況であり、そうした状況の下で市民の期待に応える施設運営を継続し、評価を得ていくことが法人の使命であることを内部で意識共有している。 <評価項目 3 施設の管理運営> (質問) 地区内ではトコジラミの発生など多く聞く。施設には洗濯室やシャワー室があり、発生防止が重要だと思うが、薬剤散布など対策の頻度はどのように考えているか。 (回答) 年 2 回業者による害虫駆除を実施するほか、市販品での対応となるが、置型薬剤の設置を適宜行っている。発生防止が大事ではあるが、実際に洋服などについての方が施設を利用する例もある。利用を拒まず必要に応じて関係機関につなぐなど、施設設置趣旨に沿った運営をしていきたい。 (質問) 地域に介護認定者が約 1,000 人いるとのことで、高齢者対応は喫緊の課題であると思う。一方で施設は古く、設備としても階段しかない。生活館の利用者は高齢者でも比較的元気な方が利用していると推察されるものの、その点のギャップについて、どのような工夫を行っていくか伺いたい。 (回答) 昇降機や階段昇降機等の物理的な対応は難しい面がある。重い荷物を持っている方は職員が運ぶのを手伝ったり、転倒しないように付き添ったりするほか、連絡があった際は施設外に行って支援を行うなど、できる範囲の対応を実施している。 (質問) 施設条例の制定が古く、条例趣旨に沿いながらも現在のニーズを捉え、それにとどまらない活動も必要となるがその点何か補足はあるか。 また、提案資料等で利用実績の延べ人数はわかるが、実人数はどれくらいか。公的施設の観点で見れば、利用者が固定化するの望ましくないが現状はどうか。もし固定化の傾向があるのであれば、利用していない方々の掘り起こし等も重要と思うがどうか。 (回答) 施設条例は日雇い労働者が多かった昭和 40 年に制定され、その間、条例の趣旨目的の改正はなかった。高齢者が増え高齢者の多いまちへ変遷はあったものの、簡易宿泊所に多くの方が住む状況は変わっておらず、条例の基本的な部分は変化がないと考えている。 条例上、女性や子どもの表記はないが、生活館の女性・子どもを対象とした施設があり地区出身の親御さんの子どもが学童を利用するなどの変化がみられる。 なお、簡易宿泊所の居住者や野宿の方などはコミュニティがない状況にあると考えられるため、市とも相談し条例趣旨の「更生と福祉」以外にも利用者のコミュニティ形成を位置づけ取組を行うこととしている。高齢者文化事業において利用者の主体性を生かした交流を促進し、自立を促すような取組をしていきたいと考えている。 一日の実利用人数は 120～130 名程度。簡易宿泊所で生活保護を受給する方などを中心に、洗濯室・シャワー室のみを利用する利用者もいれば、野宿の方など開館から夜間まで利用する方も 10 名程度といった利用状況。ボランティアワークにはなるが、路上を回って声掛けするなど利用していない方への取組も行っている。 広報の取組では、生活館パンフレットを適宜配付しているほか、協会広報誌「い
--	---

	ぶき」にも掲載し周知するなど積極的に取り組んでいる。 （質問）事故防止の取組について、発生した際の対応方法を決めておくことは多くの施設で行っていることと思う。生活館においては事件性のあるものから日常的なトラブルまで様々なものがあるとのことだが、それを記録し、定期的な振り返りで課題解決するような取組は行っているか。 （回答）記録に残る程度の重大なものは年間を通じてはばない。重要さに幅があるため難しい部分があるが、利用者間トラブル等は日常的に発生しており、記録等とはっていない。 ただ、管理面で考えると人権的な配慮は必要ではあるものの、事件レベル以外の記録が残らないというのはどうなのかということもあり、考えていく必要があると思っている。 （質問）特定の人のみが利用する入所施設のような施設とは対照的に生活館は誰でも利用することができる施設で、そうした性格を生かしつつトラブルを未然防止していくことは難しいと思うが、何が起こるか分からないご時世で、女性や子どもも利用する施設であることを考えると、なんらか対応をお願いしたい。 （回答）初期段階で異常が察知できるよう、施設内の巡回を徹底するとともに、もし事案が発生した場合には、個別に対応し積み重ねていくことが大切であると考えている。 <評価項目 4 事業の企画・実施> （質問）施設の利用調整について、個別的な相談を会議室で行っているとある。相談内容はプライバシーに係るようなものもあると思われ、本来個室での対応が理想ではある。専用の相談ブース等がない中でやむない対応と思うが、利用者調整としてはどのようにしているか。 （回答）会議室は夜間帯や土日の稼働は高いが、平日日中は高くないため、調整を行いながら個別相談に対応できている。 （質問）運営費の効率化について、提案書中、電気のプランの見直しの実施とあるが、具体的にこれだけ下がったなど実績はあるか。 （回答）詳細のわかる職員がいなかったため、具体的金額は答えられないが、電気ガス等については、都度電気・ガス会社に指導いただき、支払いについて見直してきたことは事実。 （質問）建物の設備の管理・点検等は委託で実施していると思うが、この費用を安くするために取り組んでいることはあるか。 （回答）生活館及び応募団体内部も含めて入札を徹底している。なお、今まで2社への見積もり提出依頼であったものを3者にするなど見直しも行っている。 <評価項目 5 収支計画及び指定管理料> （質問）5年間の指定管理料提案書で本部会計へ繰入額の記載があるがどのような内容のものか。 （回答）生活館運営には施設に従事する職員その他、法人本部でも人的支援や物品購入等のサポートを行っており、それに要する経費を法人本部への繰入金として計上している。
--	---

（質問）指定管理料提案書の本部会計繰入金と実際の法人の予算書の正味財産増減計算書に記載されている法人本部経費がどの年度もだいたい均衡しているが、生活館からの繰入金で法人本部経費を賄っているということか。また、決算書を見ると実際にはそんなにかかっていないがどうか。

（回答）本部会計への繰入金は退職給付費を含む職員人件費として指定管理料の８％に加え、消耗品等購入費等を想定して提案書に言う法人本部会計への繰入を想定している。

（質問）次に、退職給付費の会計について、貸借対照表で退職給付引当金として負債に計上している金額より多く退職給付引当資産を計上しているが、どのように考えているか。

（回答）協会本部においてその年によって退職給付額の増減があり、引当資産がマイナスになることもあるため、財政状況に応じて適宜繰入を行っている方向性としている。

（質問）必要以上に退職給付引当資産に計上することは、資産を効率的には運用できていないということであり、資産に余分が生じていれば、その分退職給付費を減らし指定管理料を減らすこともできると思う。

（回答）退職給付費については、長期的な想定のもと、現行の職員体制で将来に生じる金額のシミュレーションを行っている。指定管理料が増加しない中で、正規職員は定期昇給があるなど、退職給付引当資産が足りなくなる場合も想定されるので、先の回答のとおり運用をしているもの。

（質問）足りなくなる想定なのであれば、退職金給付引当金の算定を適正に行う必要があるし、適切な退職給付費を計上できるよう指定管理料を増額することも必要と思われる。

（回答）この件については、対応を考えていきたい。

（質問）先ほどの回答の中でボランティアの人が来る例が減っているとのことだが、現在でも地域の活動は引き続き活発であることを見ると、この寿地区のコミュニティも変化してきているという認識でよいか。

（回答）地区外のボランティアが全くなくなっているわけではない。年末やお盆の時期などその時々で参加いただけたり、学生がボランティアで来てくれる例はあるが、社会的変化もあり就職した後は参加が難しくなっている傾向がある。

■審査結果

各委員が審査を行い、事務局が集計。結果は以下のとおり。

総得点 403点 得点率 80.6%

委員会の定める最低基準である６割を上回る結果となった。

■指定候補者選定

集計結果を受け、横浜市寿生活館の次期指定候補管理団体として公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会を選定した。

■選定結果報告書

横浜市寿生活館の選定結果報告書については、審査にあたり各委員から述べられた意見を事務局で取りまとめ、案を作成した上で阪東委員長に一任して確定することとした。

■審査講評

横浜市寿町健康福祉交流センターと連携した取組も行われているので、役割分担をしつつ、施設ごとの特色を生かした運営を行っていただきたい。施設での現場対応を大切にしつつ、建物の管理運営や事故防止など管理面についても進めていただきたい。

また、長期で指定管理を継続し運営が固定的になりやすいので、運営の効率化・スリム化の工夫の視点を持っていただけるとよい。

長く指定管理を行っている中で新陳代謝の部分は難しい面があるが、地域の関係団体との交流会の開催など活動を積極的に行われていてよいと感じた。

長年にわたり運営を行ってきた団体であり、事業の実施については特に問題ないと感じた。一方、今後事業をどうしていくか、どうやめていくかなどの提案については具体的でなかった点で厳しい評価とした。

会計面に関しては、競争性のある指定管理者制度を公益財団法人の会計で当てはめる難しさはあるが、その前提に立てば、頑張っている印象を受ける一方、対応できていない部分も見られた。

まちの特性上、新規で参入はなかなか難しいことだと思う。施設見学にも行ったが、職員の方もよく対応されている印象を受けた。設備面が古くやや暗い感じを受けるので、応募団体だけの問題ではないが、この点も改善してほしい。

ボランティアの方に時々手を借りつつも、施設職員により事業が行われ、地域に広がっている状況は良いと思う。これまでの運営経験の中で着実にベースが出来上がっていると感じている。